



Brand-new Mihara's way 最終章 “過疎のまち”から100万人の観光地へ

～「住民主体のまちづくり仲間を集めたカリスマ」上坂卓雄氏に聞く～

Brand-new Mihara's way では、新三原市が魅力的で、住民が明るく暮らしてゆけるようになる為には、どうするべきかを旧1市3町を巡り取材していった結果、「食」というキーワードにたどり着くことが出来ました。そこで、三原を訪れる観光客に「三原の食とまちの魅力」とは何かアンケートを行いました。そこで得た地域の魅力を「観光資源」としてうまく活用することで「食を活かしたまちづくり」が出来ないか取材を行ったところ、ついに「出石」というまちを発見したのでした！

出石景観



中心部



皿そば

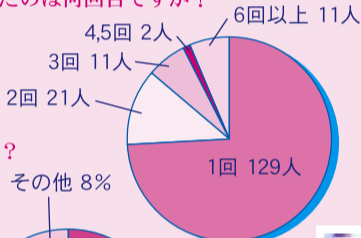


【三原観光アンケート結果】

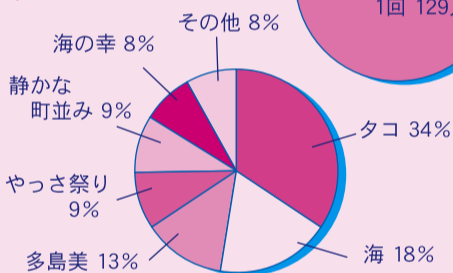
三原を訪れた観光客174人に聞きました。

(2005年5月～9月 三原駅前近辺にて広報委員会が実施)

Q1.三原に来られたのは何回目ですか？



Q2.三原は魅力は？



Q3.あったら良いと思うものは？

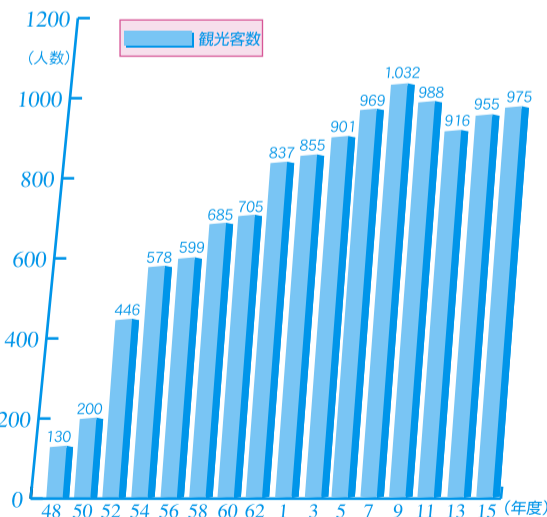
- | | |
|------------------|----------|
| 温泉などの施設 | 道の駅 |
| タコ、小早川隆景などの歴史資料館 | 海産物市場 |
| 大規模なお土産店 | 観光ルートの設定 |
| | タコ漁体験 など |

豊岡市出石町 概要・地図



人口：11,335人
 面積：約89.13km²
 (2004年12月)

…出石を訪れる観光客数 推移グラフ…



もともと出石は、観光とは無縁のまちだった!

出石町は、三方を山に囲まれた、なだらかな盆地が広がっています。江戸時代は城下町として栄え、その後も地域の中心として栄えてきましたが、明治以降鉄道敷設を拒否し、経済の中心は豊岡市に移り衰退傾向を続けてきました。

そのため、城下町の風情と多くの社寺は残りましたが、観光地としては全く無縁のまちでした。

2面からは出石まちづくりの秘密が…

みたかきいたが

◆三原をどう思うかを市民に尋ねると「活気がない」という返事が必ずといっていいほど返ってくる。が、しかし週末のショッピングセンターや郊外の大型店はかなりの混雑であるし、主要道路はいつも車が途切れることはない。そして、やさ祭りの最中などはものすごいパワーを感じる光景が繰り広げられる。とすれば活気がなくなったのは市民ではなく三原そのものというこ

とだろう。◆ではなぜ市民は「活気がない」と感じてしまうのだろうか。私たちが他の都市の賑わい具合を感じるの、たいていの場合その都市一番の『まち(=繁華街)』の活気だ。つまり、都市の活気は市民が都市の中心として思い浮かべる『まち』がいかに賑わっているかではかられている。三原市民が他都市の人に、「三原の一番の『まち』はどこですか。」ときかれたとき、多くの方が駅前周辺を思い浮かべてその賑わいのなさに恥ずかしさを感じ、自らの地域を「活気がない」と感じてしまっているの

ある。◆では、ショッピングセンターや郊外の大型店舗はどうだろう。今のところそれらは『まち』としては認識されていない。広島市においても、新しいショッピングセンターが本通りの店舗すべてを集めたよりも売場面積が大きく、集客数が多かるうとも、広島市の『まち』といえば本通りなのである。おそらくは前者が突如に現れた空間であり、地域によって少しずつ創りあげた後者は皮膚感が違うからであろう。◆私が子ども時代をすごした30年前、「『まち』に行く」という言葉はわくわくとした高揚感と

晴れがましさを伴っていた。東町・館町・本町・西町・帝人通り・駅前周辺と三原市民の思い浮かべる『まち』は変遷してきたが、それらは、いつも地域力がにぎわいを創り出したという皮膚感を持つ『まち』であり、三原の活気のバロメーターであった。天満屋三原店が閉店を決め、その跡を開発会社に売却した現在、私たちに活気を取り戻すべき『まち』の存在すら危うくなっている。